



▲開港が間近となった新北九州空港（2005年10月撮影）

新北九州空港 ～2006年3月16日開港～

新北九州空港は、北九州都市圏を中心とした航空需要に対応して拡張が困難な現空港に替わり、大型ジェット機の就航が可能な新設空港として計画。1994年の着工から12年経った今年の3月16日に開港する。

新空港は、航空機騒音の影響が小さいといった海上空港の特長を生かして、21時間の運用でスタート。これにあわせ、早朝・深夜の定期便の就航が予定されている。

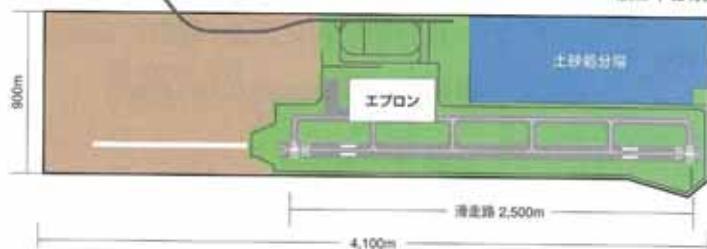
新空港の開港は、北九州都市圏の人びとの航空交通の利便性が向上するだけでなく、地域の経済に良い効果をもたらすものと期待されている。



▲北九州市は、本州や九州各地とつながる高速道路網やフェリーの基地もあり、交通の結節点となっている。新空港の開港により、さらに交通のネットワークが強化される。また、北部九州は、鉄鋼や自動車産業などの集積がみられ、これらの産業を通じてアジア諸国との関係も深い地域である



(2005年12月撮影)



▲港湾事業と連携し、埋立材には浚渫土砂を用いた



▲浚渫土砂の投入が完了した直後（軟弱な埋立地盤の改良が技術的に最大の課題となつた）



▲ドレンの打設（地盤改良は、プラスティックボードドレンを採用した。総延長は1万8,000kmにも及ぶ）



▲開港時のエプロンは、大型ジェット機用2バース、中型ジェット機用2バースを整備する



▲滑走路は2,500m、2005年11月からチェックフライトが始まった



▲ターミナルビル前の道路・駐車場の工事は開港直前まで続く



▲海上に延びた進入灯。着陸帯では芝が芽吹いてきた